

ノリ養殖におけるクロダイの食害への対応について

本県では、海面に網を浮かべて養殖する「浮き流し養殖」によって、県内12の漁業協同組合でノリ養殖業が営まれ、2022年度は全国8位の生産量がありました。

岡山県の海域は、三大河川をはじめ陸域から豊富な栄養塩が供給されるため、ノリの生育に適しており、岡山自慢の特産品となっています。

近年、クロダイによる養殖ノリの食害が全国的に問題となっており、本県でも従来から一部の漁場では、食害が確認されていましたが、ここ数年で食害の発生する漁場が増加しています(写真1)。秋から冬にかけての水温降下の鈍化や、魚価の低迷により積極的に漁獲されなくなったことなどが要因と考えられていますが、水温が低下し、食害が収まると考えられていた1月以降の被害も散見され始め、有効な対策の検討が喫緊の課題となっています。

現在、ノリ網を別の網で囲い、クロダイの侵入を防ぐ対策が一部の養殖業者で実施され、効果もみられています(図1)、シーズンに10回前後行う収穫時の囲い網の取り外しと再設置に要する労力に加え、資材費など追加の経費もかかるため、囲い網の導入が困難な養殖業者の網に食害が集中する新たな問題も発生しています。

クロダイは本県が実施した“おかやま旬の魚総選挙”で秋の推し魚1位に選ばれた、人気の魚です(図2)。本所では今夏、小学生向けにクロダイを知ってもらう体験イベントを実施し、骨を使ったキーホルダーづくり、さばき方の実演、フィッシュアンドチップスの試食を行いました(写真2)。今後も、クロダイのおいしさを知ってもらう体験イベントなどを通じて、食害実態の周知やクロダイの需要喚起を図り、対策につなげていきたいと考えています。

(海面・内水面増殖研究室：横山)



写真1 ノリを捕食するクロダイ



図2 クロダイの宣伝POP

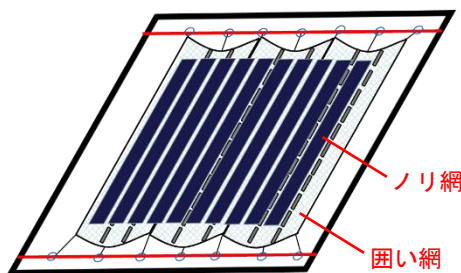


図1 囲い網の模式図



写真2 クロダイのさばき方の実演